

# 令和7年度 都城市立有水小学校 学校自己評価・学校関係者評価 評価書

回収率…児童 97.3%、職員 100%、保護者 86.8%

		達成の割合		A 80%以上	B 80~50%	C 50%~20%	D 20%以下	肯定的評価 (A + B)	学校自己評価 (校長)		学校関係者評価 (学校運営協議会)		総合評価						
児童の判断基準 (%)		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	思わない														
教師・保護者の判断基準 (%)		よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない														
学習	1 主体的な学習	児童	46%	48%	3%	3%	100%	B	○小中一貫学力推進校として、学力調査を分析しワードクラウド等を活用して、学力を伸ばす手段について検討し「学び合い」を軸に、わさびを意識した授業の視点も意識して全員が授業を録画し振り返ること等で授業改善を行った。このことが職員の授業改善への肯定的な結果や児童の学習意欲向上につながった。校務でのICT活用により、端末の文房具化についても、職員や児童の肯定的な回答が高い。今後も授業での利活用を推進していく。		・先生方のご苦労を大変だと感じる。児童たちが明るく元気で学習してくれることが一番なので工夫しながらがんばってほしい。	・子どもたちの評価もまあそう思うが多いと思う。	・「わ・さ・び」の授業について親にも周知を行ってもらいたい。家族でも教えすぎず子供自ら取り組む学習ができればよい。	・児童数は少ないが、教師の100%がまあそう思うと回答しているので、今後もしっかりと取り組んでいただきたい。	B				
		教師	13%	87%	0%	0%	100%		○全校朝会で、元気いっぱいを合言葉に「自分の考えをもち、表現する子ども」に関する話をし、意識づけを行った。特に、他者参照や自己調整をする機会の設定等の取組により、自分の考えや学んだことを自分の言葉で表現しようとする姿が見られるようになった。引き続き表現力の育成も図っていく。										
		保護者	21%	52%	27%	0%	100%		○Q1グランプリやYOMUYOMUワークシートの活用等市の取組と合わせて、算数タイム等朝の時間を活用し、計算や漢字の習得等、基礎基本の徹底を図った。朝の時間での反復演習やICT教材の活用により、児童の学習意欲と習熟度が向上した。児童アンケートでは肯定的な回答が89%となり、概ね目標を達成している状況である。		○基礎基本の定着度に差が見られるので、個別に重点的な支援（放課後学習や個別指導）を強化し、学びの見届けや学びの確認により、学級全体での「確かな学力」の底上げを継続して推進する。								
	2 基礎的・基本的な内容の習熟	児童	59%	30%	11%	0%	100%		○Q1グランプリやYOMUYOMUワークシートの活用等市の取組と合わせて、算数タイム等朝の時間を活用し、計算や漢字の習得等、基礎基本の徹底を図った。朝の時間での反復演習やICT教材の活用により、児童の学習意欲と習熟度が向上した。児童アンケートでは肯定的な回答が89%となり、概ね目標を達成している状況である。		○基礎基本の定着度に差が見られるので、個別に重点的な支援（放課後学習や個別指導）を強化し、学びの見届けや学びの確認により、学級全体での「確かな学力」の底上げを継続して推進する。								
		教師	25%	75%	0%	0%	100%		○Q1グランプリやYOMUYOMUワークシートの活用等市の取組と合わせて、算数タイム等朝の時間を活用し、計算や漢字の習得等、基礎基本の徹底を図った。朝の時間での反復演習やICT教材の活用により、児童の学習意欲と習熟度が向上した。児童アンケートでは肯定的な回答が89%となり、概ね目標を達成している状況である。		○基礎基本の定着度に差が見られるので、個別に重点的な支援（放課後学習や個別指導）を強化し、学びの見届けや学びの確認により、学級全体での「確かな学力」の底上げを継続して推進する。								
		保護者	33%	46%	21%	0%	100%		○Q1グランプリやYOMUYOMUワークシートの活用等市の取組と合わせて、算数タイム等朝の時間を活用し、計算や漢字の習得等、基礎基本の徹底を図った。朝の時間での反復演習やICT教材の活用により、児童の学習意欲と習熟度が向上した。児童アンケートでは肯定的な回答が89%となり、概ね目標を達成している状況である。		○基礎基本の定着度に差が見られるので、個別に重点的な支援（放課後学習や個別指導）を強化し、学びの見届けや学びの確認により、学級全体での「確かな学力」の底上げを継続して推進する。								
	3 家庭学習	児童	57%	11%	24%	8%	100%		○学習習慣の形成こそが学力向上の土台だと考え、小中合同で「家庭学習の手引き」を作成・周知して家庭学習ガイドを親子で作成し、各家庭で具体的に取り組めるよう促した。また、「振り返りカード」を毎学期使い、家庭学習について親子で振り返りを行ったが、今年度も教師と児童・保護者に意識の違いが見られた。以前として取組状況は家庭により差が見られたので、啓発を図っていきたい。		○間違えたところを重点的に復習できるよう学習の状況等が確認できるAIドリルであるキュビナを家庭学習にも活用する試みを進めているが、スマホ等の利用時間が多い児童も見られ、家庭での学習時間も課題の一つである。								
		教師	33%	67%	0%	0%	100%		○学習習慣の形成こそが学力向上の土台だと考え、小中合同で「家庭学習の手引き」を作成・周知して家庭学習ガイドを親子で作成し、各家庭で具体的に取り組めるよう促した。また、「振り返りカード」を毎学期使い、家庭学習について親子で振り返りを行ったが、今年度も教師と児童・保護者に意識の違いが見られた。以前として取組状況は家庭により差が見られたので、啓発を図っていきたい。		○間違えたところを重点的に復習できるよう学習の状況等が確認できるAIドリルであるキュビナを家庭学習にも活用する試みを進めているが、スマホ等の利用時間が多い児童も見られ、家庭での学習時間も課題の一つである。								
		保護者	43%	24%	27%	6%	100%		○図書主任を中心に、図書館サポーターと連携し、読書ゲームやおすすめの本コーナー設置等の取組の充実により、読書冊数の学校目標5000冊以上を1月に達成したことは大きな成果である。		○図鑑や説明資料等が多く読まれている現状があり、長文（物語文等）への読書意欲がもう一つである。また、家読を含め、読書習慣が十分身についていない児童もあり、それが保護者の意識に結びついていないことも一因として考えられる。保護者の意識が50%と課題が見られたので家庭への啓発を推進するとともに、取組の紹介等も積極的に行い、意識改善に努めていく。								
	4 読書	児童	48%	22%	19%	11%	100%		○図書主任を中心に、図書館サポーターと連携し、読書ゲームやおすすめの本コーナー設置等の取組の充実により、読書冊数の学校目標5000冊以上を1月に達成したことは大きな成果である。		○図鑑や説明資料等が多く読まれている現状があり、長文（物語文等）への読書意欲がもう一つである。また、家読を含め、読書習慣が十分身についていない児童もあり、それが保護者の意識に結びついていないことも一因として考えられる。保護者の意識が50%と課題が見られたので家庭への啓発を推進するとともに、取組の紹介等も積極的に行い、意識改善に努めていく。								
		教師	29%	71%	0%	0%	100%		○図書主任を中心に、図書館サポーターと連携し、読書ゲームやおすすめの本コーナー設置等の取組の充実により、読書冊数の学校目標5000冊以上を1月に達成したことは大きな成果である。		○図鑑や説明資料等が多く読まれている現状があり、長文（物語文等）への読書意欲がもう一つである。また、家読を含め、読書習慣が十分身についていない児童もあり、それが保護者の意識に結びついていないことも一因として考えられる。保護者の意識が50%と課題が見られたので家庭への啓発を推進するとともに、取組の紹介等も積極的に行い、意識改善に努めていく。								
		保護者	25%	25%	38%	12%	100%		○図書主任を中心に、図書館サポーターと連携し、読書ゲームやおすすめの本コーナー設置等の取組の充実により、読書冊数の学校目標5000冊以上を1月に達成したことは大きな成果である。		○図鑑や説明資料等が多く読まれている現状があり、長文（物語文等）への読書意欲がもう一つである。また、家読を含め、読書習慣が十分身についていない児童もあり、それが保護者の意識に結びついていないことも一因として考えられる。保護者の意識が50%と課題が見られたので家庭への啓発を推進するとともに、取組の紹介等も積極的に行い、意識改善に努めていく。								
全体平均			36%	47%	14%	3%	100%												

生活	5 有水 導入	児童	78%	19%	0%	3%	100%	B	○全職員で共通理解を図った「よいこのきまり」に基づき、規律ある集団生活が概ね実践できた。守っている児童への称賛、問題への即時対応を心がけた結果、全体的に肯定的な回答であった。今後は、きまりの意義を自ら考え判断できる力の育成をさらに推進していく。		○SNSの利用状況に課題が見られるので、家庭でのICT端末利用やSNSのルール作りを推進して、家庭・地域と緊密に連携しながら、学校外での生活面においても、児童が安全に正しく判断できる力を養っていく必要がある。		B	・自分たちが知っている地域の方への挨拶は大きな声で積極的にしている。道上で知らない人（地元の人）には会釈ができたらいい。		B		
		教師	33%	67%	0%	0%	100%		○SNSの利用状況に課題が見られるので、家庭でのICT端末利用やSNSのルール作りを推進して、家庭・地域と緊密に連携しながら、学校外での生活面においても、児童が安全に正しく判断できる力を養っていく必要がある。		○SNSの利用状況に課題が見られるので、家庭でのICT端末利用やSNSのルール作りを推進して、家庭・地域と緊密に連携しながら、学校外での生活面においても、児童が安全に正しく判断できる力を養っていく必要がある。			・よく守っていると思う。				
		保護者	57%	38%	5%	0%	100%		○SNSの利用状況に課題が見られるので、家庭でのICT端末利用やSNSのルール作りを推進して、家庭・地域と緊密に連携しながら、学校外での生活面においても、児童が安全に正しく判断できる力を養っていく必要がある。		○SNSの利用状況に課題が見られるので、家庭でのICT端末利用やSNSのルール作りを推進して、家庭・地域と緊密に連携しながら、学校外での生活面においても、児童が安全に正しく判断できる力を養っていく必要がある。			・学校での整理整頓がよくできていると思う。挨拶も元気がありよい。				
	6 生徒指導の4機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定・安全感全安心な人間関係）	児童	86%	11%	3%	0%	100%		○健やかな心身を育む指導の推進のために「生徒指導の4機能」を念頭に教育活動を展開し、SOSの出し方教室や薬物乱用防止教室等、命を大切にする教育や常時指導により、「思いやり・行動」が肯定的な回答90%以上となった。今後も子供たちに寄り添い、称賛等により肯定的な指導・支援を全職員で心がけていく。		○スクールワイドpbsを実践し、すげえ挨拶を合言葉に、挨拶キャンペーンを展開したことで肯定的な回答が90%以上という結果だった。全校朝会でも、思いやりいっぱいを合い言葉に、日々の思いやりのある行動を称賛したり、「命の大切さ」等の話をしたりして、心の醸成に務めている。縦割り班（有友チーム）での活動等でも、思いやりのある言動が見られている。今後も、自己中心的な言動等については、その場で振り返らせて、よりよい行動を考えさせてていきたい。			・全ての項目が良好である。休日の時の学年に関係なく仲が良い。心豊かな子どもたちである。				
		教師	88%	12%	0%	0%	100%		○スクールワイドpbsを実践し、すげえ挨拶を合言葉に、挨拶キャンペーンを展開したことで肯定的な回答が90%以上という結果だった。全校朝会でも、思いやりいっぱいを合い言葉に、日々の思いやりのある行動を称賛したり、「命の大切さ」等の話をしたりして、心の醸成に務めている。縦割り班（有友チーム）での活動等でも、思いやりのある言動が見られている。今後も、自己中心的な言動等については、その場で振り返らせて、よりよい行動を考えさせてていきたい。		・上下学年でも仲良くほほえましい。			・「す・げ・え」あいさつの表彰状は保護者もうれしい気持ちになった。				
		保護者	57%	38%														

生活	7	健康的な生活習慣 (「早寝早起き朝ごはん」歯みがき含む)と 安全意識の醸成	児童	46%	40%	14%	0%	100%	<p>○健康等に関する児童の評価86%、保護者70%と昨年度と引き続き基本的な生活習慣が課題である。今後も、生活習慣チェックカードを活用して個別に面談したり、保護者に働きかけたりする等して健康の保持・増進につながる指導を展開していく。</p> <p>○歯磨きについては、習慣化するように給食後の歯磨き指導や学級活動等での歯を大切にする指導を行っているが、1日3回がいっていると答えた児童の割合が少ないのが課題である。むし歯がある児童の割合は21%で、むし歯の再発率も高い。歯の健康について引き続き家庭への啓発をすすめ、治療率(12月現在50%)もあげていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あと5分早く起床してほしい。</li> <li>朝ごはんはしっかり食べさせてほしい。</li> <li>先生からの家庭へのアドバイス声掛けを強くしてもらいたい。</li> <li>保護者の30%ができないと思っているので、指導を続けてほしい。</li> </ul>
			教師	14%	86%	0%	0%	100%		
			保護者	29%	41%	27%	3%	100%		
8	食事・立腰		児童	38%	43%	8%	11%	100%	<p>○全校朝会で鉛筆やはしの正しい持ち方の指導を行った結果、意識して取り組む児童が増えてきている。立腰についても目を大切にするために姿勢が大切で、スマホやタブレット使用時の姿勢に気を付ける等の話をした。立腰の意識化を図るために授業開始と終了時の号令に立腰という言葉を入れているので、全員が自然にできるまで見届けていく。</p> <p>○「姿勢を正して食べる」等の基本マナーを指導しているが、一部に準備や片付けの丁寧さが欠ける傾向が見られる。残食減だけでなく、食事環境を整える態度の育成を、道徳や特別活動と連動して強化していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族で会話しながら楽しく食事している。</li> <li>お母さん方にバランスの良い食事を作ってほしい。</li> <li>食事の時の姿勢は成長に応じて徐々に身につければよいと思う。</li> <li>立腰は大人でも姿勢が悪い。サポートする器具を使うようにしたらしいのではないか。</li> </ul>
			教師	29%	57%	14%	0%	100%		
			保護者	27%	40%	33%	0%	100%		
肯定的評価の全体平均			49%	41%	9%	1%	100%			

その他	9	こ小中一貫教育の推進	児童	62%	19%	14%	5%	100%	<p>○「こ小中連携」については、学校通信とこども園便りで情報交換とともに、合同で交通教室、遠足や持久走大会等を実施することができた。子ども園からも集めたペットボトルキャップを届けてくれる等交流を図ることができた。中学校とも「YuYuランドデイ」等の学習交流の実施により、全体的に肯定的な回答であった。特に本年度は両校ともに、小中一貫学力向上推進校や環境教育推進校の指定を受け、その成果を発表することができた。</p> <p>高城地区内のTJ学習については、インフルエンザ流行の為一部が中止となったが、他は予定通り実施できた。小・中各学校の反省や協議をもとに次年度の教育課程に位置づけ、計画的に進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数なので、特に一貫教育が充実しているのでは、子どもが真ん中(中心)の教育で素晴らしい。</li> <li>・小・中もう少し近くにあれば、よかったと思うが大変だと思う。</li> <li>・発発に中学生と交流して先輩からたくさんのこと学んでほしい。こども園との交流も増えたい。</li> <li>・スポーツフェスタでも表現できているように一貫教育はできていると思うが、YOU YOUNUランドデイが以前と比べて減っているのではと感じている。</li> <li>・こども園との取組がうすれている感覚がある。</li> </ul>
			教師	38%	62%	0%	0%	100%		
			保護者	53%	31%	16%	0%	100%		
その他	10	地域素材・人材の活用	児童	61%	28%	11%	0%	100%	<p>○SDGsを意識し、児童が主体となって有水小エコライフプロジェクトを立ち上げクリーン活動やグリーン活動、広報啓発活動等、地域貢献活動に取り組んだ。他にも地域Co.を中心とした連携で、地域人材を積極的に登用し、ふるさと教育の各学年での2回以上の実施、郷土芸能(有水鉦踊り)への協力体制の強化、道守活動への参画等、取組に対しては全体的に肯定的な回答であった。次年度は教員の業務負担軽減と教育の質向上の両立をさらに追求したい。(3月にこ小中地域合同クリーン作戦を予定)</p> <p>○150周年記念事業を通じ、児童が地域の歴史を学ぶ機会が増え、郷土愛が深まった。記念式典や催しでの地域の方との交流により、学校と地域の絆が強固になり、学校を核とした持続的な協力体制が構築される成果を得たように感じる。150周年期成会の方々のご尽力により記念事業を予定通り実施できたことに大変感謝している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画の地域の方との交流は素晴らしいことである。ここ数年鉦踊りへの参加と継承の重要性が理解できたのでは。地域とともにある学校だと思う。</li> <li>・昔の有水に触れた時間に、児童の興味ある顔を見ることができ、大変うれしい。有水の良いところをもっと持つと知ってほしい。</li> <li>・地域への声かけをもっとできれば有水の良さを教えてくれる人が増えると思う。</li> </ul>
			教師	50%	50%	0%	0%	100%		
			保護者	46%	36%	15%	3%	100%		
肯定的評価の全体平均			62%	29%	8%	2%	100%			

学校評価者評価を踏まえた今後の方策	<p>○「安心・安全な学校」では、児童と行う安全点検や心のアンケートの実施、職員研修、すこやか委員会等の会議等により、全体的に肯定的な回答であった。今後も毎日の校内巡回等で危険個所等をチェックしながら、はやめの修繕を心がける。また、道路交通法の改正に伴い、正しい自転車の乗り方も再度指導していく。</p> <p>○「体育や屋休みの運動」については、全体的に肯定的な回答であった。ただ、体力テストの結果から、昨年度のTスコアと比較して得点が下がった学年も見られ、体力の二極化がすすむ等課題が見られる。教科体育での運動量を確保し、有体パワーアップ、有水サーキットの取組や外遊びの奨励等により、体力の向上に努めていく。</p>
-------------------	--